

防災だより『防災VG10 周年記念号』

第 30 号
 令和2年 11 月 30 日発行 関ヶ谷自治会 防災部防災ボランティアグループ
 ☆防火チーム☆情報・通信・電気チーム☆食料・物資チーム☆医療・介護チーム ☆防災資機材取扱チーム 自治会館 ☎784-4447

防災VG発足 10 周年を迎えて、その歩み

防災VG 初代代表 小西 義一

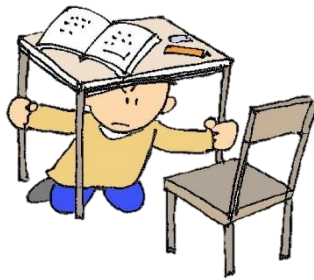
速いもので 10 年目を迎えるときに当たり設立当時からのどのような切っ掛けで立ち上げたか、今日に至る足跡を振り返って、将来に備えるための節目となれば幸いと思い纏めて見ました。

私は防災VGの発展の経過は現在まで大きく分けて三つの期間で考えて見ました。

第 1 期・揺籃期 ⇨ 第 2 期・発展成長期 ⇨ 第 3 期・将来への課題

先ず、どのような経緯を経て発足したかを考えて見ると、下表のとおり被害の大きかった地震が北海道から本州中部にかけて多発し、更に国の「中央防災会議」がすでに発足し、「南海トラフ大地震」の切迫性を警告してきた環境の中で、我々自治会はどう対処するかを考えました。

地震名称	発成年月	M 値
阪神淡路大地震	平成 7 年 1 月 17 日	7. 3
鳥取西部地震	平成 12 年 12 月 17 日	7. 3
宮城沖地震	平成 15 年 5 月 26 日	7. 1
釧路沖地震	平成 15 年 9 月 26 日	8. 0
宮城沖地震	平成 17 年 8 月 16 日	7. 3
能登半島地震	平成 19 年 3 月 25 日	7. 3
新潟中越地震	平成 19 年 7 月 16 日	7. 1



その時にテーマ別に四つの特別委員会を発足し検討することにしました。

第一期、四つの特別委員会公式の会議を「H20 年 10 月～H22 年 9 月まで 2 年間で 29 回実施」

名称	開始年月	会議回数	内 容
1 高齢化委員会	H20.10 月～H21.3 月	9 回 内 4 回	高齢化が急速に進む中で災害に対してどう対処するか 災害問題の委員会は第 6 回～第 9 回
2 自治会業務見直し委員会	H21.6 月～H21.12 月	10 回 内 5 回	選考委員会・高齢委員会の中でどのような体制にするか 高齢者の緊急時/平常時の対応、第 6 回～第 10 回
3 防災対策委員準備委員会	H22-2 月～H22-3 月	5 回	組織の役割、業務内容、援助隊の構想 自治会を 3 地区に分けて各々リーダーを置く
4 防災対策委員会	H22-4 月～H22-9 月	6 回	ここで防災VG体制の骨格を整備しました、そして内容を発表、

防災委員会の方向が決まった、具体的にどのような内容の作業をするかが、次の課題

名称	開始年月	会議回数	内 容
防災VG募集	H22. 7 月～H22. 8 月	数回	大災害時に必要なことを説明し防災ボランティアを募集 115 名の、多数の方の応募が得られました
防災VGの役割の対住民へ説明会	H22. 9 月	9 回	立ち上げの説明会を全地区、全住民の方にその必要性と内容を 9 回説明しご理解を求めました
防災ボランティア設立総会	H22.11 月 27 日	1 回	ここに正式に『防災VG (ボランティアグループ)』が発足しました

正式な委員会とは別に個別の会議は随時行われました。各年の提案やご意見書など時に年間 60 通以上の建設的な提案や要望を受信、皆さんの並々ならぬ気持ち、うかがわれ大変感激しました。

その 4 か月後私たちの発想が間違いではなかったことが不幸にも現実が発生しました。

平成 23 年 3 月 11 日
東日本大地震発生



第 2 期 防災VG委員会の活動

名称	開始年月	内 容
地区別・高齢者・身障者リスト作成	H22.10 月	高齢者を 80 歳以上とすると 302 名 高齢者を 85 歳以上とすると 184 名
防災VG組織	H23. 2 月	自治会へ自主活動部として防災VGを申請認知
行動規範作成検討 行動計画構成作成	H23.3 月～6 月 20 日	さまざまなケースを想定、整理
安否確認作業手順 安否確認訓練	H23.3 月～4 月	玄関扉にタオルかけ、消火器 自治会と共同で毎年実施、
初動体制の確立	H23.9 月	防災資器材の整備と情報開示の問題
緊急の課題	H23.9 月	通報連絡体制の確立
家具転倒防止対策	H23.11 月	消防署釜利谷出張所長の談話、資料説明
「よこはま地震 防災市民憲章」	H25.3 月	制定されました、その基本的な理念は『私たちの命は私たちで守る』です
防災だより発刊	H25-7 月	全住民に対し防災・減災の意識の向上を図る、自らがその気になって近隣の方と協力しないと助からないこと 防災VGは災害弱者(障害者・超高齢者)をどこまで助けられるか大きな課題です。

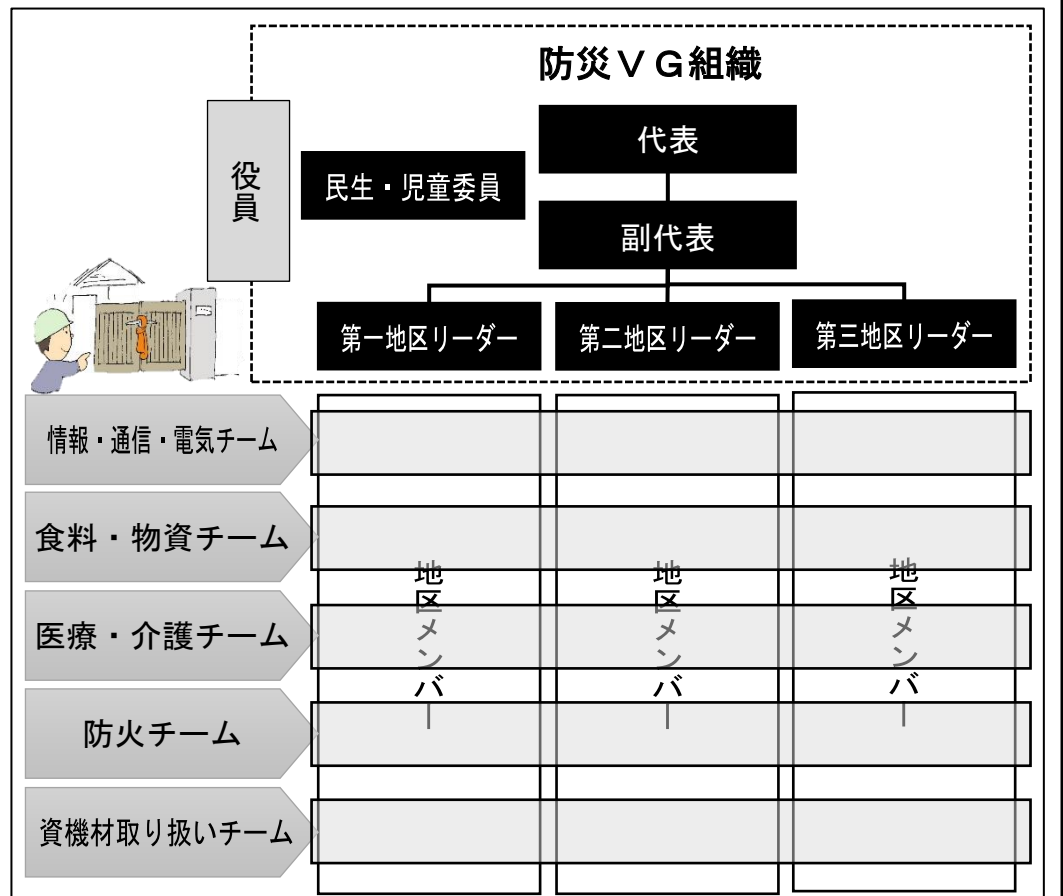
防災VGの立ち上げ・設立・実行まで各種委員会に参加された方、積極的に参加された常任委員(敬称略(順不同)＝徳岡・篠原・笹目・坂口・野呂・十川・和泉・鈴木・小松・武居・他)

- ・期間中の自治会会長・役員・防災部長・部員の方々
- ・期間中の民生委員の方々全員
- ・期間中の自主活動部の代表の方々全員

大変多くの方々の熱心な議論・提案が有ってこそ成立しました。

最後に誌上を借りて感謝の意と厚く御礼を申し上げます。

私は防災VGの創生期の役割が終わったので平成 25 年 12 月に退任、以後徳岡代表(平成 26 年 1 月～令和元年 12 月)に後をお願いをしました。



防災ボランティア・グループ 10 周年に寄せて

元民生委員・児童委員 笹目良雄

防災ボランティア・グループ 10 周年おめでとうございます。

平成 13 年(2001 年)12 月地区の民生委員・児童委員を引き受けて、仕事の内容を先輩方に教わり勉強するにつけて、我々だけでは対応できなのではと心配になりました、特に地震など大きな災害が発生した時に、援助を必要とする高齢者などの対応はとても無理だと感じておりました。

当時、関ヶ谷見まわり隊(防犯パトロール)の活動が立ち上がっており、災害時にも地域の皆さんの協力が得られないか働きかけをしていましたが、幸い自治会「業務見直し委員会」の課題の一つとして「要支援者に対する緊急時/平常時の対応策」が取り上げられ、準備委員会を経て、防災対策委員会が平成 22 年(2010 年)4 月に立ち上がりました。この委員会の中で防災ボランティア・グループの立ち上げについて話し合いが行われ、発足の運びとなりました。

民生委員・児童委員は、災害時に要支援者の情報提供を担うことになり、地域の皆さんと協力して、災害時に必要な対応ができるようになりました。

防災ボランティア・グループの 10 年間のご努力に感謝し、更なるご発展をお祈りしております。



防災 V G 10 周年を迎えて

関ヶ谷自治会会長 栗原廣之

2018 年発行の『40 周年記念・関ヶ谷自治会の歩み(10 年)』によると、防災 V G の歴史は、2010 年 11 月設立、115 名で要支援者の安否確認の活動を開始したとあります。

その後年毎に、防災講演会、防災 DVD 作成、「防災だより」の発行、安否確認避難訓練の実施、「関ヶ谷地区・災害対策本部設置要綱」の策定、スタンドパイプ式初期消火器の購入、5 つの防災スキルチームの発足、防災意識アンケート実施、感震ブレーカー斡旋販売、災害時を想定した納涼大会の照明用電源にカーバッテリーを利用等々安心・安全のまちづくりに多大な貢献が確認できます。

関東大震災や阪神淡路大震災では多数の被災者が出ましたが、約 9 割は、自力または家族、地域の人々によって救助され、普段から近隣や地域社会とのつながりが極めて重要であることが再認識されています。



こうした過去の災害を振り返ったとき、「向こう 3 軒両隣」という自治会員の共通認識こそ、今後の防災対策に必要と考えます。

最後に、防災 V G が会員のみなさまの健康維持と防災活動への熱意を一段と高められることを祈念して、防災 V G 発足 10 周年のお祝いとします。

自治会との連携

一 防災会議(H26 年夏の発足時は防災合同会議)の立ち上げ

①立ち上げの主な理由(防災だよりより抜粋)

自治会防災部と防災 V G との連携協力体制の強化の為に構成員は自治会側から会長・防災担当役員・防災部長、防災 V G 側から代表・副代表。

②会議の取組み課題案件は

- *災害・発災時の対応策の検討・策定について
- *平常時の防災・減災啓発活動について
- *防災訓練の実施・工夫について
- *要支援者に対する支援体制・対応策の検討・策定について 等

二 全住民の安否確認、災害対策本部の立ち上げ

- ①自治会防災訓練時に地区長・班長による全住民の安否確認実施
- ②災害対策本部の設置:電源確保の提言、防災資機材の点検・稼働確認等

三 防災アンケートの実施・会員名簿に防災関連情報の等の掲載

- ①防災意識の向上、備蓄等の備え(感震ブレーカー等の設置の促進)
- ②会員名簿に防災関連情報を掲載し事前準備・必要性の再確認

四 防災バス見学会による見学・体験講習

- ①東京都、神奈川県、横浜市の防災センターを見学し、震度 7 や煙等の体験



前防災 V G 代表 徳岡 正彦

これからの 10 年

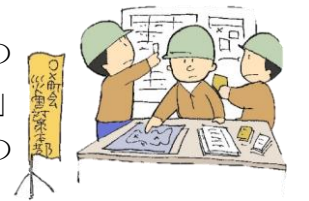
関東学院の細田先生曰く、関ヶ谷地区は「都市型限界集落」とのこと。同地区の高齢化率(65 歳以上の人口比)は 2019 年 64.7% (推定値)とまさに都市型(過疎ではない)限界集落の典型です。

要支援希望者は 2010 年 103 人が 2019 年では倍の 208 人となっています。一方、担い手の防災 V G メンバーは発足当初は 115 名が直近では 77 名、38 人減となり、防災 V G メンバー一人当たりの要支援者担当人数は 0.9 人から 2.7 人で実に 3 倍も増えています。諸先輩方が苦勞して作り上げた防災 V G の一丁目一番地である「要支援者支援の仕組み」が絵に描いた餅の様相です。

要支援者への支援の仕組みを、ボランティアが担うのではなく、一歩進めて関ヶ谷自治会の高齢者対策として「地域で支援(向こう 3 軒両隣)」する本当に機能する仕組みにすべきと考えます。

併せて、防災 V G は、地域の防災・減災活動に専念する「自主防災組織」への変革が必要な時期ではないでしょうか。この二つの改革によって、この先も安心・安全に暮らせる地区になるものと考えます。

その意味で、これからの 10 年は、初代代表の小西さんが言っていた「第 3 期・将来への課題」に挑戦し実現させる 10 年にしないとならないのではと考えます。



防災 V G 代表 山本 寛

【防災 V G (ボランティアグループ) の活動紹介】

防災 V G の主な活動

- § 要支援者の見守り & 発災時の支援
- § 自治会防災・減災活動に対する提言及び活動
- § 自治会防災資機材・薬品等の点検 & 新規購入提案
- § 防災・減災意識の啓発
 - ・スタンドパイプ消火訓練の開催
 - ・「防災だより」の年 4 回発行
 - ・家庭内備蓄リスト表の作成・配布
 - ・会員名簿への防災・減災関係記事の編集
 - ・防災に関するアンケート調査
 - ・ビニール袋を使った炊飯等の実演会 ets



防災 V G スキルチームの活動

- ✓情報・通信・電気チーム
 - 情報の収集手段、通信手段、発災時の電源対応などについて活動している
- ✓防火チーム
 - 火災予防、スタンドパイプ初期消火演習、減災などについて活動している
- ✓食料・物資チーム
 - 食料備蓄・管理方法、簡易炊飯・メニューの紹介などについて活動している
- ✓医療・介護チーム
 - 備蓄品の定期的点検、イベント時のケガ等対応などについて活動している
- ✓資機材取り扱いチーム
 - 資機材の定期点検・稼働点検や新規グッズの提案などについて活動している

